「少年漫画における、表現の自由と規制」

1931100 松本響也（本多ゼミ）

要約（400 字）

表現の自由が担保されている日本において、昨今の漫画への公権力による表現規制は正しくない行為だと考えている。しかし、ジェンダー、歴史、性表現などに対する大衆の声は年々厳しくなっており、制作側が自粛せざるをえない状況に陥っている。

本論文では、少年漫画はこれから、各表現規制や炎上とどう向き合っていくべきなのかを論じた。

第 1 章では、公権力による表現規制の不当さを示した。第 2 章では、歴史、ジェンダー、性表現など、炎上したさまざまな事例を挙げ、少年漫画はこれからどのように対応していくべきなのかを論じた。第 3 章では、ポリティカル・コレクトネスの影響で表現が窮屈になっている米国の現状を取り上げ、日本でも米国のように広がっていくことが正しくないことを示した。第 4 章では、ルッキズム、ジェンダーなどのポリティカル・コレクトネスと、性表現に関して、まだ問題になっていないが、この先控えるべき表現や変えていくべき表現を論じた。